

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 3 月 24 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4672200120号		
法人名	有限会社 敬 徳		
事業所名	グループホーム かいもん		
所在地	鹿児島県 指宿市 開聞十町 1330番地 1 (電 話) 0993-27-2110		
評価機関名	NPO法人 自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成21年3月20日	評価確定日	平成21年4月11日

【情報提供票より】 (平成21年2月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成17年5月27日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 5人, 非常勤 9人, 常勤換算	14人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り	
	1階建ての	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有 ( 円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円) ○無	有りの場合 償却の有無	有 / ○無
食材料費	朝食	250 円	昼食 450 円
	夕食	450 円	おやつ 円
	または1日当たり		1,150 円

### (4) 利用者の概要 ( 2月1日現在 )

利用者人数	18名	男性 4名	女性 14名
要介護1	8名	要介護2	6名
要介護3	4名	要介護4	0名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均 85歳	最低 79歳	最高 94歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人慈光会宮菌病院、開聞歯科医院
---------	--------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市の郊外にあり、周囲にスーパーや神社、協力病院、同系列老人ホーム等があり、自然と利便性に恵まれた環境の中のホームである。職員は協力して入居者の支援に関わり、当たり前の暮らしが支えられ、利用者は落ち着いた明るい笑顔である。介護度改善により、在宅へ復帰した利用者がみられ、家族等の安心・満足度に繋がっている。同系列の老人ホーム・障害者施設等の地域資源との関係を築きながら、住み慣れた町で地域に根ざしたグループホームの運営を目指している。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
	職員は理念を共有しながら日々のケアに活かす取り組みをしており、改善している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	運営者・職員は評価の意義や目的を理解し、自己評価に全員で取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
	会議は定期的開催され、協議によりボランティア団体の利用や図書館の利用、映画の上映などサービスの向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	相談窓口を明記したり意見箱を設けている。意見や要望の受付窓口として管理者の携帯電話を家族に知らせている。要望にはしっかり対応し、家族等に満足が得られている。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	地域行事の6月灯・運動会・神社祭り・小中学校の運動会等に参加している。また、ボランティア訪問でフラダンス・大正琴・踊りや近所の住民が野菜等持って立ち寄るなどの交流が行なわれている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	その人らしく暮せる支援に取組み、家族や地域の人たちとの絆を重視した理念を、職員会議や運営連絡会議で話し合って作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を確認できるように玄関・応接間・トイレに掲示している。管理者は勉強会やカンファレンス時に理念を支援の方針として伝えている。職員は理念を基本として共有しながら、日々のケアに活かしている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域行事の6月灯や運動会・神社祭り・小中学校の運動会に参加している。ボランティアによるフラダンス・大正琴・踊り訪問や近所の住民が野菜等を持って立ち寄るなど交流が行なわれている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者・管理者・職員は、評価の意義や目的を理解し、自己評価に全員で取り組んでいる。約半数を占める男性利用者の配置や一人ひとりの満足度についてなどの意見が出され、具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は定期的に行われ、ボランティア団体の利用や図書館の利用、映画の上映など、サービスの向上に活かしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者にホームの運営やサービスについて、相談したり指導を受けながら、関係づくりを積極的に行なっている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等へは月1回の定期的な来訪があり、その時に心身の状況や暮らしぶり、職員異動、行事予定、運営推進会議等の報告をしている。金銭は本人が管理している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談窓口を明記したり、意見箱を取り付けている。意見を出しやすいように管理者の携帯電話を知らせており、電話にて相談が寄せられている。要望にはしっかり対応し、家族等に満足が得られている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員と入居者や家族等との馴染みの関係を、重要視したケアに心がけている。やむを得ない異動の場合には、職員にホームの理念や支援の考え方や方法を充分指導した後、利用者がダメージを受けないように取り組んでいる。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は段階に応じた研修に参加して、復命研修報告をしている。また内部研修は法人内の勉強会などで職員の技術や知識の向上に努めている。また資格取得に対しても支援している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は薩摩半島グループホーム協議会の会長を努めており、他事業所と勉強会をしたり、地域ネットワークづくりの交流などの充実に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望の本人と家族に面談し、生活歴や住環境を把握し、思いや不安を十分に聞いている。また馴染めるように見学や十分な説明をし、信頼関係を築き、不安なく入居できるように取り組んでいる。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	よもぎ摘みや団子作り・食事作りなど日々の関わりの中で、その人の特技を発見したり、なぐさめや思いやりの言葉に感動したりしている。また職員は感謝の言葉や笑顔に励まされながら日々を共にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ほとんどの利用者は言葉で思いを表現できているので、その意向を尊重している。職員間の情報交換に努め、利用者が自由に表現し自己決定できるように支援している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	パーソンセンタード方式を使用しており、本人や家族の意向・主治医の意見・職員の気づきや意見を反映した本人本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月から6ヶ月の見直しをしている。個別記録にケアの実践結果、気づき、家族の意見を記録して情報を共有し、入居者の状態変化や入退院の折はそのつどモニタリングを行い、評価結果の見直しに活かしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族等の状況や要望に応じて病院受診や墓参り・自宅訪問・自宅の掃除など必要な支援を柔軟に行なっている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族等が希望しているかかりつけ医の受診が継続できるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に対して、ホームができる最善の対応に向けて具体的な話し合いを設けている段階である。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の意識向上を図るため、尊厳に対する関わり方について勉強会をしている。利用者の誇りやプライバシーを損ねないように声かけや対応に留意している。職員採用時の個人情報保護への誓約書も取っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・起床・入浴・レクリエーション等、生活リズムと身体状況を大切にしながら、本人の希望や状況に応じて柔軟に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理・配膳・下膳・食器洗いなど、できる事を一緒にしながら職員も同席して食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望や体調に合わせて対応している。業務中心でなく、個々の希望により、毎日でも入浴できるように支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理・食器洗い・掃除・習字・草取りなど利用者の趣味や特技を発揮できるように支援している。また気晴らしの支援に足湯・美容院・神社等に出かけている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的には散歩や買物・神社・花畑に出かけている。またドライブを兼ねて、「ソーメン流し施設」や花見遠足等、外出の機会づくりをして、閉じこもらない支援に努めている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかける事の弊害を理解しており、プライバシーに配慮しながら見守りに徹しているため、入居者は解放的で自由な生活をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回災害訓練を行っている。夜間想定をした訓練も計画されており、地域連携体制もできている。災害時の備蓄もできている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食料・水分量を記録して一人ひとりの状態に応じた摂取量の確保ができるように支援している。身体状況に合わせて食事形態を適正に提供している。また栄養バランスは栄養士のアドバイスをもらっている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は明るく室温や換気・臭いに配慮が行き届いている。各ホールよりデッキに出られるようになっている。応接間もあり、ホールには季節行事の飾り付けや手作りカレンダーなど飾られて、生活感あふれる共用空間である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ・籐椅子・寝具・籐タンス・化粧ケース・自筆の習字など、それぞれ馴染みの物が持ち込まれている。また花の名前を各居室入口に掲げて目印とするなど、工夫して居心地良く過ごせる居室作りである。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。